

最大需要期“母の日”を前に本県産アジサイの入荷が増加

4月の歓送迎会シーズンが過ぎ、花き市場では「母の日」(5月第2日曜日)に向けた動きが目立ってきました。花き全般において母の日需要は大きな動きを見せますが、中でもギフト商品として選ばれることが多い鉢花にとっては一年で最も大きな需要期となります(右図)。

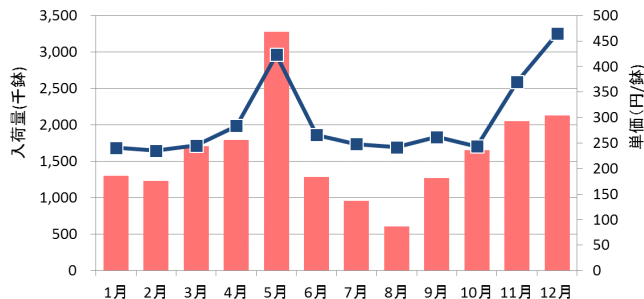
今年の母の日は5月14日であり、“母の日が最も遅い年”となっています。このため母の日の雰囲気が強まる5月に入ってからの期間が長くなることやゴールデンウィーク期間と離れていることなどから、仲卸では「今年は販売期間が長くなるので売上げが見込める」という声も聞かれます。

そして母の日と言えば誰もが思い浮かぶカーネーション、特にギフト用の鉢物(ポット)カーネーションは唯一の需要期となります。そのため産地ではこの時期を目指して作付けや開花調節(温度や摘心作業等)が行われます。本県においても東部地域(館林)を中心に全国有数の産地となっており、東京都中央卸売市場では産地別販売金額で3位(28年、占有率14.6%)を誇っています。

また、カーネーションと並び母の日のギフト鉢花としてカタログや小売店、Web販売などで目にする機会が多くなっているのが「鉢物アジサイ」です。本県では東部や西部地域を中心に古くから生産が行われ、生産者による品種育成も盛んに行われており、東京都中央卸売市場では産地別販売金額が2位(28年、占有率16.1%)となっています。

中でも生産者が組織する群馬県アジサイ研究会では、均一化に高い技術を要する鉢物アジサイにおいて、オリジナル品種「フェアリーアイ」などを核とした共同販売体制を確立し有利販売を行うなどその取組が注目されています。

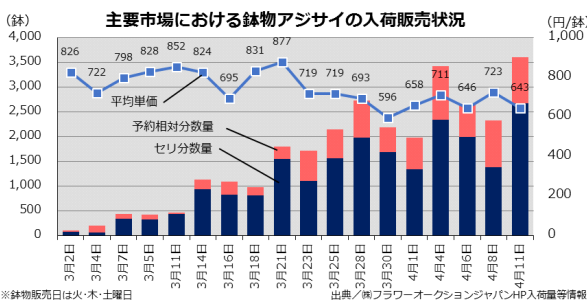
東京都中央卸売市場における鉢花の入荷量及び単価推移(23~27年の平均値)



半てまりの八重咲き品種フェアリーアイ

母の日を前に、本県産をはじめアジサイの入荷が増加中!

大田市場では日によって差はあるものの鉢物アジサイの入荷量が3月から徐々に増加してきました(下図)。鉢物(苗物等を含む)の取扱金額が全国2位を誇る(株)フラワーオークションジャパン(大田市場に入る卸業者)では、現在本県のほか愛知や埼玉、栃木、千葉等からも入荷しています。市場担当者によると、「今年の出来映えは現在のところ順調な仕上がりとなっており、4月末(連休前)から本格的な母の日商戦が始まる。ボリュームのある群馬県産はこれから販売が活発になる。」ということで、現在は消費者が買いやすい草丈が40~45cm程度のややコンパクトなアジサイ(愛知県産中心)の引き合いが強く、安定した販売が行われています。



市場へ入荷した本県産鉢物アジサイ



愛知県産鉢物アジサイ

買参人に向けて卸会社が母の日オススメ商材を提案

(株)フラワーオークションジャパンでは、大田市場花き棟にて売買参加者等に向けて母の日オススメ鉢物商材の展示及び予約注文の受付を行っています。カーネーションやアジサイのほか、バラやリーガースベゴニア、クレマチス、洋らん、ブーゲンビリア、観葉植物、多肉植物などもあり、中には本県産のアジサイやリーガースベゴニアも展示され注文を待っていました。



母の日向けの寄せ植え多肉植物



母の日オススメ商材の展示と予約受付